

読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒162-0828
 東京都新宿区袋町6
 日本出版クラブ会館内
 TEL 03(3260)3071
 FAX 03(5229)1560
 発行人 宮本 久
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.609

★「敬老の日 読書のすすめ」掲載書目一覧(2頁)
 ★第72回「読書週間」ポスターイラスト決定(8頁)



「敬老の日読書のすすめ」によせて

「こんな夫婦になりたい!」 『bonとponふたりの暮らし』舞台裏

株式会社主婦の友インフォス
出版部

やざわ いずみ
矢沢 泉



にすること。大事な人への気持ち、あらためてことばにして伝えること。「楽しそう」と思うことに、恐れずに飛び込むこと。柔軟に受け入れること。でも無理をせず、肩に力を入れず、自然体生きること……。

取材からは学ぶことがとても多く、ふたりの生き方の魅力が、写真に現れているんだと実感しました。

発売後は、うれしいことに大きな反響がありました。たくさんの方が届いたのは、おふたりと同年代から年上のシニア層。「おしゃれの参考になった」「人生を楽しんでいて素敵」「シニアの希望」といった意見が集まりました。

20〜30代の若い世代からの反響も大きく、「この本を読んで結婚したくなった」「パートナーを大事にした」「年を重ねることが楽しみなった」といった声も多く寄せられました。

人生を楽しみたい、すべての人へ。世代を問わず、広くお勧めの1冊になりました。

おそろいのグレイヘアに、黒縁メガネ。ギンガムチェックやボーダーなどの柄、青や赤の差し色を共通させるなど、どこかにつながりを持たせた「リンクコーデ」のファッション。美術館や公園など、出かけた先で撮ったツーショットの全身写真を投稿し、注目を集めている60代のインスタグラマーのご夫妻がいます。2016年12月から投稿をはじめ、いまではフォロワー数75万人という大人気アカウントです。

ふたりの暮らしは2017年10月に発売となりました。個人で楽しんでいたインスタグラムで写真を見かけた私は、ふたりに一目惚れ。「将来こんな風になれたらいいな」と思うような、かわいらしくて素敵で60代カップルの姿は、漠然とした不安をもつていた「将来」を、明るく照らしてくれる一筋の光のようにも思えました。コメントを見ると、「おしゃれ」「理想の夫婦」と、読みきれないほどたくさんコメントがついています。

グラムのダイレクトメールを送ったのは、2017年3月。海外のネットニュースなどでふたりが紹介され、爆発的にフォロワーが増えはじめた直後。まだ、ふたりがインスタグラムをはじめた3か月のときでした。連絡をしてから数日の間に、複数の出版社から立て続けに声がかかったという。もしDMを送るのが1日遅かったら……。そう思うと、タイミングと運に感謝せざるを得ません。

取材の中で印象的だったのは、インタビューで奥さんのponさんが発した「ふたりで過ごせる60代の今が一番楽しい」ということば。ファッションを含め、いくつになっても人生を楽しむこと。パートナーや家族を大事

ふたりの共同アカウント名は「bonpon511」。511は、結婚記念日(1980年5月11日)からきている仲良しカップルです。

そんなbonponさんの初めての本『bonとpon』

その思った私が、「本を出版しませんか?」とインスタ



2018 敬老の日読書のすすめ

心ゆたかに生涯読書

「2018敬老の日読書のすすめ」は、例年どおり、各都道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日（高齢者）にすすめる本の推薦書目」とに、公益社団法人 読書推進運動協議会 事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布、実施します。

本年度は40の読進協から、73点の書目の推薦をいただきました。もともと多くの推薦があったのは、若竹千佐子の『おらおらでひとりいぐも』で、10の読進協から推薦がありました。ついで、橋田壽賀子の『恨みっこなしの老後』が5つの読進協から、日野原重明の『最後まで、あるがまま行く』と瀬尾まなほの『おちやめに100歳！寂聴さん』に4つの読進協から推薦があり、人気を集めました。

今回は、100歳を超えた方の作品が複数推薦されました。また、定年後の暮らしに関する作品への推薦も多くありました。一方で、小説への推薦が昨年同様になく、2冊のみの掲載となりました。次回もさまざまなジャンルの作品への推薦を期待しています。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社一点 ②複数県推薦書



今年は華やかな赤です！

③対象読者向きか ④目の検討
そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。最終的に委員会全体で確認し、24点が決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、14万3000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、活用していただきます。また、当協議会ホームページに、展示用ポップのデータも用意します。

なお、リーフレットは、多少の予備を用意しておりますので、必要な場合は、当事務局までお問い合わせください。

03-3260-3071

e-mail info@dokusyo.or.jp

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
若竹千佐子	おらおらでひとりいぐも	一二九六円	河出書房新社
門井 慶喜	銀河鉄道の父	一七二八円	講談社
黒柳徹子(選)	読むパンダ	一五二二円	白水社
日本ペンクラブ編	鬼才伝説	一六二〇円	中央公論新社
加藤 一二三	いずれの日にか国に帰らん	一九四四円	山川出版社
安野 光雅	おかげさまで、注文の多い笹餅屋です	一五二二円	小学館
桑田ミサオ	すこいトシヨリBOOK	一〇八〇円	毎日新聞出版
池内 紀	やばい老人になろう	一八八八円	PHP研究所
さだまさし	恨みっこなしの老後	一〇八〇円	新潮社
橋田壽賀子	若者がうらやましがる老人になつてやろう	一八八八円	海竜社
帯津 良一	科学者が解く「老人」のウソ	一四〇四円	産経新聞出版
武田 邦彦	はじめての八十歳	一五二二円	岩波書店
山藤 章二	最後まで、あるがまま行く	一八八八円	朝日新聞出版
日野原重明	百歳人生を生きるヒント	八四二円	日本経済新聞出版社
五木 寛之	おちやめに100歳！寂聴さん	一四〇四円	光文社
瀬尾まなほ	相沢英之と司琴子 人生100歳 二日生涯	一五二二円	双葉社
相沢 英之	きょう、きょう、あした。	一五二二円	主婦と生活社
つばたし英子	桃紅一〇五歳好きなものと生きる	一四〇四円	世界文化社
阿川佐和子	オンナの流儀	一四〇四円	文藝春秋
大石 静	わたしは生活百科	一五二二円	集英社
群 よう子	わたしの主人公はわたし	一〇八〇円	平凡社
細川 紹々	bon と pon ふたりの暮らし	一二九六円	主婦の友社
bon pon	定年が楽しみになる！オヤジの地域デビュー	一五二二円	東京新聞
清水孝幸(著)	夫の定年一入生の長い午後を夫婦でどう生きる？	一九四四円	ミネルヴァ書房
佐藤正明(絵)			
グロム(わいふ)			
佐藤ゆかり			



2018・第72回 「読書週間」開催についてのお願

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりま

すよう、お願い申し上げます。今年この標語は「ホッと一息本と一息」です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

公益社団法人 読書推進運動協議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げています。

(1) 国民すべてに

読書をすすめる運動

「秋・読書週間」に、ぜひ、一冊の本を「活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や

図書館で一冊の本を手にとってみる、そんな展示や行事を期待しています。

(2) とくに青少年に

読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなった」といわれてきました。近年は、受験戦争に加え、映像や電子メディアなどの発達で、ますます子どもたちの「読書」の時間がせめられていきます。しかし、どんなメディアの時代でも、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、親子文庫、職場、地域単位などのグループ)は約1万1400あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2013年度 全国読書グループ総覧』より)。グルー

プ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

(4) 家庭文庫、地域文庫、職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かになることが必要です。各地域の公共図書館が充実し、読書グループや家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

名称 2018・第72回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書店商業組合連合会)

後援 文部科学省(申請中)

期間 10月27日(土)から11月9日

(金)まで

標語 ホッと一息本と一息

《行事内容》

●「全国優良読書グループ表彰(第51回)」の実施

●「野間読書推進賞(第48回)」贈呈式開催

●ポスターおよび広報文書配布(公共図書館、全国小・中・高等

学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各種機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書雑誌展示会」(著者をかこむ会)などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会による都道府県単位の「読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向け「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

2018 読書週間 ポスターイラスト



イラスト さとうみずす

(ポスターは9月中旬完成予定です)

「第19回絵本ギャラリーin奈良」

動物やキャラクターとふれあい
さまざまなお絵本と出会う

7月28日(土)、29日(日)、奈良県の奈良市ならまちセンターで「第19回絵本ギャラリーin奈良 ひらけ小さな芽! 絵本がくれる宝物」(主催)同実行委員会が開催された。

奈良県警察マスコットキャラクター「ナポくん」「ナピちゃん」も登場して会場に集まった子どもたちとくす玉を割った。

29日は、奈良市出身の画家網谷幸二さんの「色彩と遊ぶ」と題したおはなしとワークショップ。配られた画用紙に参加者たちが好きな色を自由に塗って下地とし、



網谷さんのワークショップでは直接、絵の指導も!

その上に家族の顔をスミで描き、個性あふれる作品ができあがった。

30日は人形劇団クラルテによる、大和郡山市在住の絵本作家岡田よしあきさん原作の『おーいペンギンさん』が上演された。かわいいうペンギンのペンタロウとたろうくんのふれあいを軸に舞台はお風呂屋さんから南極へと進む。大阪弁の人形劇に会場の子どもたちははきぎつげとなった。

メイン会場のほかにも、さまざまなイベントが開催された。「ワゴンちゃんに絵本を読んであげよう」企画では、子どもたちがおとなしい介助犬とふれあい、絵本の読み聞かせにチャレンジした。ほかにも地元の高校生による絵本劇や工作のイベント、ボランティアグループによるおはなし会や人形劇などが催され、赤ちゃん絵本や、障がい者のためのデイジー図書やユニバーサルデザイン絵本も紹介された。また、会場では「子ども読書活動推進」啓発ポスター優秀20作品も展示された。

「子どもの読書推進会議」2018年度第1回総会

「上野の森親子ブックフェスタ」と
全国の「絵本ワールド」の推進を

7月12日(木)、東京都新宿区の日本出版クラブ会館で「子どもの読書推進会議」2018年度第1

回総会が開催され、昨年度の事業報告と決算報告および今年度の事業計画と予算案が説明・討議され承認された。

子どもの読書推進会議、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団の3団体が主催する「上野の森親子ブックフェスタ」は2018年から読書推進運動のフェアとしての位置づけを明確にするため名称を「上野の森親子ブックフェスタ」とし、ゴールデンウィークの5月



「上野の森親子ブックフェスタ」会場ではあちこちで作家のサイン会などが開催

3日~5日の3日間、上野恩賜公園で6万冊の絵本と読者が出会った。

公官庁のほかにも、版元・取次・書店などの出版界と、公共図書館・作家団体などの読書界から多くの後援協力が得られた。とくに日本

児童文学者協会、日本児童文芸家協会、日本児童出版美術家連盟の作家団体は独自のブースを構え、似顔絵を描いたり、サイン会をしたり、直接読者とふれあった。今年にはさらに日本国際児童図書評議会のブースも加わり、翻訳者も参加した展示となった。

課題だったレジ行列の問題は、レジ台数を増やし集中レジに方式に変えて大きく改善した。また、荒天による中止リスク対策も含め、ひきつづき主催団体として拠出金を支出することが承認され、8月30日(木)の報告会予定が報告された。

絵本ワールドは、2017年は全国6か所で開催されたが、今年には全国4か所、奈良県、福島県、新潟県、和歌山県、で開催される。



2017年の「絵本ワールド in わかやま」では廃線となった駅舎にライブペインティング

20回連続開催してきた「絵本ワールド in いしかわ」や16回連続開催してきた「絵本ワールド in とつり」が残念ながら昨年で中断した。2000年の「子ども読書年」を契機に大きな盛り上がりを見せ、全国各地で開催された絵本ワールドだが、新たな活性化の時期にきており、より魅力的なプログラムの開発と、絵本即売会の工夫を望む意見があった。

今年で3回目の絵本ワールド開催の和歌山県は、有田川町の教育委員会を中心にした取り組みの事業で、新しい枠組みの可能性を示しており、地元行政や書店との協力的関係の重要性を示唆しているとの発言があった。最後に、参加団体から活動報告があり、閉会となった。

■「世界のバリアフリー児童図書」カタログ日本語版

あらゆるバリアを越えるための世界の本を紹介

日本国際児童図書評議会(JBY)はブックカタログ「世界のバリアフリー児童図書」I・B・B・Y(国際児童図書評議会)による2017年選定図書「日本語版を刊行した。世界のバリアフリー児童図書は、「障がいのある子どもたちにも豊かな読書体験を」の願いから2年に一度選定されており、今回は日本の本5冊を含む21か国50冊の本が選ばれている。



野間読書推進賞受賞「ぐるーぶ・もこもこ」の布絵本「こんこんくしゃんのうた」も掲載

「点字・手話・絵文字など、作り方やデザインに特別な配慮がある」

本 ○カテゴリー2「ユニバーサルアクセス(共に)」Ⅱ一般に出版されている本の中から、さまざまな年齢、さまざまな能力、特に、学習障がい、知的障がい、発達障がいのある若い人たちも楽しめる本 ○カテゴリー3「ポर्टレイト(理解)」Ⅱ障がいのある人びとを描写した絵本、小説、ノンフィクション、にわけて図書を紹介。心身の障がいや困難を抱えた子どもたちが、「自分ひとりではない」「こんな世界があったんだ」ということを知るきっかけとなる図書が掲載されている。

掲載図書は現在、全国の図書館などで巡回展を実施中(日程・開催についてはJBBYまで)。

カタログはJBBY事務局より500円(JBBY正会員は無料送料実費)で入手できる。また、カタログの活字が読めない、読みにくい方には、テキストデータを提供する。点字版の用意もあるの

で、JBBYに相談を。

「JBBYホームページ」
<http://jbbv.org/>

■「本の日」実行委員会設立

11月1日の「本の日」実行委員会 キャンペーンに参加を呼びかける

昨年、日本記念日協会に承認された11月1日の「本の日」について、実行委員会が設立され、7月30日(月)、東京都新宿区の日本出版クラブ会館で発起人代表の日本書店商業組合連合会の船坂良雄会長をはじめ、実行委員やプロジェクトメンバーの書店人など40人が終結し、設立趣旨と今年行うキャンペーンの概要などが確認された。

設立趣旨には、全国の書店に足を運んでもらうために、一部の書店や書店団体に限定せず、幅広く参加を呼びかけるとある。

キャンペーンの事業展開期間は10月1日~11月30日まで、11月1日の「本の日」を中心に2か月間。

キャンペーン内容は、絵本文化推進協会の協力のもと「ビブリオバトル企画」作家のサイン会、図書カードNEXTプレゼント企画などをSNSで拡散し、来店を誘導

■「MIE」教育に雑誌を

学校・学校図書館での雑誌の活用を推進するプロジェクト発足

日本雑誌協会は、2018年度より「MIE(マガジン・イン・エデュケーション)教育に雑誌を」プロジェクトチームを立ちあげ、若年層に対して雑誌メディアの価値と魅力を伝える活動の取り組みをはじめた。

本格的な実践活動を開始する前に、現在、全国の学校図書館における雑誌導入、雑誌利活用の実態調査を全国の小中高校約1000校に対して実施し、調査結果をとりまとめている。

また、8月8日~10日に行われた「全国学校図書館研究大会(富山・高岡大会)〈主催Ⅱ全国学校図書館協議会〉」では、フォーラム「MIE」教育に雑誌を」を開催し、野口武悟さん(専修大学教授)、設楽敬一さん(全国学校図書館協議会理事長)ほかと、MIEプロジェクトの梶原治樹さん

を代表して小学館の相賀昌宏社長は「まずは業界人が率先して書店に足を運ぶことが大切、業界全体がみずから動いて書店をにぎやかにしたい」と語った。

実行委員会の大垣守弘 大垣書店社長は、「配本された本を並べるだけの受け身の姿勢をあらため、できることから始めたい」とし、「本の日が自己満足で終わらないようにしたい」と結んだ。

(扶桑社)が、MIEの目的と活動概要、その可能性について、教育・図書館関係者へ紹介し、意見を交わしあった。このフォーラムでは、実態調査の中間報告もされた。

プロジェクトチームでは今後、実態調査の結果を踏まえ、学校教育・学校図書館における雑誌の有効性、雑誌の活用方法、雑誌ならではの読書運動などを提案、推進していく。その際には、出版社、学校図書館、研究機関など横断的な組織で活動を進めることにより、より実践的な提案をし、プロジェクトを広げていく予定。

するといふもの。

また、オリジナルロゴは、書評専門紙「週刊読書人」のサイトからダウンロードして自由に使用できる。

来賓を代表して小学館の相賀昌宏社長は「まずは業界人が率先して書店に足を運ぶことが大切、業界全体がみずから動いて書店をにぎやかにしたい」と語った。

優良読書グループの歩み (8)

2017年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

めがみちゃんの家

代表者 阿部 弘明

山形県最上郡舟形町

〈推薦〉
山形県読書推進運動協議会

舟形町には4つの小学校があり、読書活動グループとして2002年「さくら草の会」(舟形小)と「きらり」(堀内小)が発足。2004年「ひだまり」(長沢小)が、2008年「ポケットビスケッツ」(富長小)が発足し、各学校で毎週1回、全クラスで、読み聞かせをはじめました。

4小学校の統合を受け、読書活動グループも統合し、2015年に「めがみちゃんの家」(舟形小)となって活動を続けてきました。

現在の会員は21名で、小学校の保護者やOB、OGが中心です。毎週水曜日に全クラスで15分間の読み聞かせ活動(絵本、紙芝居、昔語りなど)を行っています。



季節のイベントは学年を越えて参加者が集まる

小学校での朝の読み聞かせが主ですが、季節ごとに小学校で夜間に読書イベントなども実施しています。また、小・中・保の読み聞かせ団体で「舟形町読み聞かせボランティア連絡協議会」を組織し、2005年から12年間、毎年、絵本作家を招いての講演会を開催し、読書や読み聞かせを推進しています。

私たちのグループは、小学校の各教室にひとり入り読み聞かせ

をするスタイルなので、ほかのメンバーとの情報交換が重要になります。そこで毎月「え！本の会」という読み聞かせ学習会を開催しています。都台のつく人がお気に入りの本を持ち寄り、お茶をしながらさまざまなおはなしをします。これが重要だと思っています。

本が好きで仲間があつたり、本や絵本の楽しさ、想像してわくわくする気持ちを、子どもたち、そして親にも知ってもらいたいので活動を続けています。

私たちの活動をきっかけに、少しでも多くの方が本を手にする機会が増えればと願っています。

柏・子どもの本を讀む会

代表者 阿部 千晴

千葉県柏市

〈推薦〉
千葉県読書推進運動協議会

「柏・子どもの本を讀む会」は1975年、家庭文庫に関わる3名により、子どもの本を讀むことを目的に発足しました。翠草、柏市の図書館本館が開館し、活動の場を図書館へ移しました。そのころは、戦後に日本で出版された児童文学の年ごとの主要作品を讀ん

だり、外国の絵本、日本の昔話、グリム童話などを取りあげていました。

メンバーは年を追うごとに増えて、現在は13名。昨年度は4名が新たに入会し、一段とにぎやかになりました。活動日は月に一度。いつも図書館本館で行っています。

会の活動は年度末の3月、つぎの1年に取りあげるテーマ選びからはじまります。最近では「イギリス」「フランス」「アジア」「北欧」など各国の児童文学や、「狼」「竜」を取りあげました。また、「ヤングアダルト作家が選んだ1冊」や「国際アンデルセン賞を受賞した作家」をテーマにした年もありました。テーマは1年の方向性を決める大事なもので、みんなで時間をかけて話しあい決めます。

テーマが決まると、月ごとの担当者や輪番制を決めます。担当者は自分の担当月までにテーマにそつた本を選び、課題本として図書館へリクエスト。図書館のご厚意で、毎月まとまった数の本が用意されます。課題本は日本のものや海外のもの、昔の名作、現代の作品、絵本からヤングアダルトまでのはば広い選択肢より、「子どもの本」にこだわり、考えます。発表は「作者の経歴や時代背景



ジャンル・時代を問わず子どもの本を学びあう

を調べる」「国の文化を掘り下げ」「作者のほかの作品を讀みこみ、あらすじを紹介する」など、それぞれの担当者の個性が発揮されます。さまざまな発表がされ、テーマがどんどん深まります。毎月配られる手づくりのレジュメを見ながら、よく考えられた発表を聞く時間は、遠い昔、学校で受けた授業の風景を思い出すようなとても有意義なひとときです。

もうひとつの活動として、年に一度、図書館のロビーでの展示があります。その年のテーマと扱った本をスラリとならべ、担当者が説明文をつけてレイアウト。来館者に「これはどんな本かな?」と手に取ってもらえるよう、工夫を

しています。

「柏子ども本を読む会」が長い間続けてこられたのは、図書館の協力と、会員一人ひとりに「みんな本を楽しみたい」という気持ちがあらずと途切れなくあつたからだと思います。「温かい雰囲気の中で自由に自分の考えが話せる。おたがいの話に共感できる。」—新しく入ったメンバーの感想です。

これからも、「柏・子ども本を読む会」は、子ども本にこだわりのながら、個性豊かな発表を軸に「みんなそれぞれが主役」という雰囲気を大切に活動していきたいと思えます。そして、私たちが理解したことを周りに伝えることで、本の豊かな世界がさらに広がっていくことを願います。

あさひ読書会

代表者 石丸 邦子
福井県三方郡美浜町

〈推薦〉
福井県読書推進運動協議会

美浜町には、すでに「わかな読書会」「やはす読書会」「きさらぎ読書会」がありました。もうひとつ読書会を作りたいと誘われて、男性ひとり、女性5人で

1993年6月に太陽のごとく明るい名前がいいと「あさひ読書会」と名づけて、旗揚げしました。

毎年11月3日の文化祭には古本市があり、公民館の玄関に山と積まれた本を、4つの読書会の人たちで分野ごとにわけたのも、思い出のひとつです。

また、年に一度、町内の読書会で文学散歩をし、作品の名所や旧跡、記念碑を訪れたりしています。しかし、読書会の高齢化などの理由から、2006年ごろ取りやめになり、その後は本読書会で独自の文学散歩をしています。

会員の高齢化が進んだこともあり、声かけ運動をして、2004年に5名、2007年に2名と、会員が増えました。若い会員さんが増えたことを受けて、郷土の家である水上勉氏が主宰された若洲一滴文庫まで足を運び、水卜勉氏の文学およびにその想いにふれることができました。

月に一度、みんなの都合がよい日の午前開く例会では、読書会などで同じ本を複数冊借りることができる、県立図書館の「かたらい文庫」を利用しています。自分では読まないだろう本も、みんなとともに読み、目のつけどころの違いを意見や聞き取り語りあつたりす

ることで、楽しみながら深い読み取りをすることができ、読書会のおかげと感謝しています。

2012年には、みんなの念願だった新しい図書館が美浜町に開館しました。建てられる際に、当時の館長さんと一緒に、読書会のみんな、または役員で、いろいろな

図書館に見学いき、意見を重ねあつたことは、昨日のこのように思い出せます。また、これらの実績から、読書会の会員の中から建設委員を選んでくださったことも、たいへんありがたかったです。

今後は、新しく建てられた図書館「なびあす」を拠点に、読書の輪を広げていきたいです。

読書サポーターズの会

代表者 高垣 浩規
岐阜県加茂郡富加町

〈推薦〉
岐阜県読書推進運動協議会

富加町には、読み聞かせや、本に関するイベントを行う団体がいくつもありました。

読書サポーターズの会は、「富加の子どもたちに本の魅力を伝えよう」を合言葉に各団体の関係者が集まり、町全体の読書活動を推

進するために、2008年に組織されました。

年度当初に町の方針を共通理解したり、園や学校を巻きこんだイベントを企画したりする際には、町内の保小中の図書担当を交えた拡大サポーターズの会として、会議を行うこともあります。

まだ歴史は浅いですが、富加町教育委員会事務局が行うイベントに、当会も企画から参画し準備のための定例会に参加するなど、精力的に活動しています。

本会が大切に行っている活動のひとつが、夏休みに実施している「絵本ライブ」です。絵本作家による歌や読み聞かせなどのライブを通して、子どもたちに直接本の楽しさを伝えるイベントです。元氣よく歌を歌ったり、笑顔で読み聞かせを聞いたりしている家族づれを見ると、企画した側も幸せな気持ちになります。

このイベントまでの間に、読書サポーターズの会のメンバーが保育園や小学校を訪問し、その年の絵本作家の絵本を読み聞かせするプレイイベントも行っています。

このイベントには毎年、校区の中学生が、ボランティアスタッフとして協力してくれます。本の楽しさを伝える側としてイベントに

関わることは、中学生にとつてとても貴重な体験です。

本会は、毎年11月に行われる町民まつりでも、町民に本の魅力を伝えていきます。発表内容は年によつて違いますが、近年では校区の小学生の有志を集め、読書サポーターズの会のメンバーの指導のもと、群読を披露しています。

また、岐阜県ではじめて、だれでも利用できる図書館を作った、富加町出身の木村小舟の生いたちを、手作りの紙芝居にして披露しています。

現在11名のメンバーですが、決して無理をせず、自分たちが楽しいと思える活動を行っていくことを、大切にしています。



おそろいのはついで登場した小学生たちの群読

2018・第72回『読書週間』イラスト 入選作決定



大賞は さとうみずずさん
「ホッと一息 本と一息」



7月17日(火)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間」ポスターイラスト選定事業委員会(出席13名)が開催され、「2018第72回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は4733点。事務局による第一次選考で22点を選び、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

- 大賞(賞金10万円)——1名
さとうみずずさん(東京都杉並区)
- 優秀賞(賞金1万円)——3名
時岡冴果さん(千葉県船橋市)
後藤真紀子さん(京都府京都市)
高木実桜さん(神奈川県秦野市)
- 入選(記念品)——8名
藤本彩絵さん(茨城県神栖市)
朝岡千恵三さん(千葉県松戸市)
乙川優衣さん(東京都武蔵野市)
矢野佳代子さん(広島県広島市)
赤澤圭子さん(群馬県桐生市)
西澤周平さん(東京都荒川区)
林あや子さん(東京都江戸川区)
澤木春さん(京都府精華町)

本年度のポスターイラストは、標語「ホッと一息 本と一息」を

テーマに募集しました。お茶を飲み、リラックスしながら本を読むそんなイラストが多く寄せられました。

大賞は、東京都杉並区のみずずさん。はつきりした色づかいと力強い線のイラストで、印象的なポスターになると期待されての選出です。大賞受賞者のごとは、来月号に掲載します。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



時岡冴果さん



後藤真紀子さん



高木実桜さん

事務局報告(7月)

- ☆3日 会員社へ(絵巻)報告、会費請求書発送
- ☆5日 「絵本ワールドin いがた」について 新潟日報社と打ちあわせ
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」(608号)データ入稿
- ☆9日 絵本文化推進協合理事会・総会に出席
- ☆10日 「第72回 読書週間ポスターイラスト 第1次選考会」開催
- ☆10日 「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席
- ☆10日 機関紙「読書推進運動」(608号)校了
- ☆11日 「第72回 読書週間ポスターイラストデザイナー選考会」開催
- ☆11日 講演「社長室と「子どもの読書推進会議」第1回総会について」打ちあわせ
- ☆12日 「子どもの読書推進会議」2018年度第1回総会を開催
- ☆13日 機関紙「読書推進運動」(608号)発行
- ☆13日 各道府県読書推進運動協議会へ優良読書グループ推薦を依頼
- ☆17日 「第72回 読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」開催
- ☆20日 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット入稿
- ☆24日 「2018年度 第2回 常務理事会」を開催
- ☆24日 「第72回 読書週間ポスターイラスト」について、ブラスアイと打ちあわせ
- ☆25日 文部科学省に「第72回 読書週間」後援名義使用許可願を送付
- ☆25日 「第72回 読書週間」趣意書入稿
- ☆26日 小峰紀雄 前読書推進運動協議会会長のお別れの会に出席
- ☆28日 「第19回 絵本ギャラリーin奈良」に出席
- ☆30日 「本の日」実行委員会設立式に出席
- ☆31日 軽減税率専門委員会に出席

編集部 & 事務局のひとこと

● 西日本を襲った豪雨で被害にあわれましたみなさまへ、お見舞いを申し上げます。

● 背骨を痛めて4月より入院していた母が、つい先日、ようやく退院しました。まだまだ安静が必要ですが、外出するのにもむずかしい状態ではありますが、自宅に帰ってきたうれしさが、回復を早めてくれそうです。

● 母は入院してひと月は、寝返りも自力でうてず、ただじつと炎症が治まるのを待つだけの日々でした。痛みが激痛から鈍痛に変わるころより、軽い脚の運動をはじめ、この後のリハビリに向けて準備。6月も後半になり、あおむけの姿勢が楽になれるようになったところで、「これで本が読めるから、なにか持ってきて」と注文を受けました。

● 自分の本棚から適当にみつろつて……と軽く考えていたのですが、いざ選ぶとなると、これがむずかしい。私は母の読書傾向をまったく知らなかったことに、気づかされました。母が本を読んでいる姿を見たことがほとんどなかったことも、その一因です。いつたい、いつ読んでいたのだろう？

● 持っていたうち、好評だったのは米原万里さん『旅行者の朝食』、梨木香歩さん『村田エフエディ帯土祿』、清邦彦さん『女子中学生の小さな大発見』。これは好きだろうなと思った本が不評だったりもしました。人に本を薦めるむずかしさを知り、もつと母と本の話をして大人になればよかつたなと後悔した、夏です。(伸)